

【初等中等教育における探究学習への支援プロジェクト】

小学生の「日本の妖怪」についての探究学習に、人文社会系研究科日本文化研究専攻の院生、長瀬優希さんがアドバイスをを行いました

2025.08

東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター（CASEER）では、「初等中等教育における探究学習への支援プロジェクト」において、児童生徒の発意や関心に基づく探究学習に対して専門の研究者が的確なアドバイスをすることにより、探究の成果をいっそう高度で充実したものとすることをねらいに、東京大学の教員もしくは大学院生がオンラインを通じて支援・指導を行っています。

今回は、広島県の小学4年生 Mさんの「日本の妖怪」についての探究学習を通して出てきた疑問に、人文社会系研究科日本文化研究専攻の院生、長瀬優希さんがアドバイスしました。

- ・探究のテーマ：日本と世界の妖怪について
- ・相談者：Mさん（小学4年生）
- ・探究学習の取組単位：個人
- ・アドバイスした人：東京大学大学院人文社会系研究科、日本文化研究専攻
長瀬優希さん（大学院生）
[専門] 江戸時代の文学、戯作、黄表紙
[研究テーマ] 黄表紙における教訓
- ・コーディネーター：教育学研究科 本田 由紀教授（CASEER センター長）



「妖怪」とは何か？という難しい問いを、どう深めるか

—言葉の意味を紐解き、比較することで特徴をつかむ—

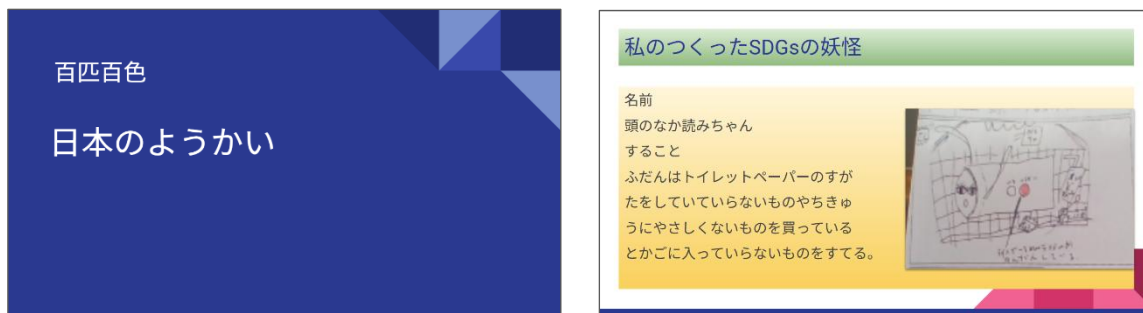
Series3. 日本と世界の妖怪について

長瀬さん：本日は宜しく申し上げます。東京大学大学院人文社会系研究科、日本文化研究専攻に所属している長瀬優希と申します。今は修士課程の2年生で、普段は江戸時代の文学について研究をしています。どのくらいお力になれるかわかりませんが、よろしくお願いします。

Mさん：Mです。小学4年生です。昨年から妖怪について調べていて、低学年代表として全校生徒の前でスライドを発表しました。内容は、日本にいる妖怪について、各県ごとに調べました。また、低学年の皆に協力してもらって、一人ひと

りが作った SDGs の妖怪をまとめて図鑑にしました。今日はよろしくお願いします。

発表したスライドのタイトルと、M さんの考えた SDGs の妖怪



長瀬さん：事前に、M さんからいただいたご質問はこちらの 4 点だと思います。

<質問>

- ① 調べる程に、妖怪なのかお化けなのかの線引きが難しい（唐傘お化けとか）
- ② 妖怪と、世界で言われるモンスターの違いは何か？
- ③ 世界の妖怪の何%が日本の妖怪なのか？
- ④ 世界で妖怪が一番多い国を調べるにはどうしたら良いか？

この質問をいただいて私もずっと考えていたんですけど、まず大前提として、この 4 つとも、とても難しい質問だっていうことをお伝えしたいんですね。とっても難しい質問で、どれも簡単には答えが出ないし、1 つの答えが出てくる質問ではない。必ずしもわかりやすい答えが出てくるとは限らない質問で、僕の先生もこれは難しいよねっておっしゃっていた。そのくらい難しい質問だということを、まずお伝えしておきたいと思います。その上で、1 つずつの質問についてお話ししていきたいと思うんですけど、大丈夫でしょうか？

M さん： はい。

長瀬さん： まず一つめの「妖怪なのかお化けなのかの線引きが難しい」というご質問なんですけども、そうですね。まず、M さんは妖怪とお化けの違いって、どういうふうにお考えですか？

M さん： ええっと…、お化けとか幽霊には、何かしたいこととか、恨みとかがあって成仏できていない動物とか物とかがなって、妖怪は、人間やいろんな動物とかから生まれたものもいれば、妖怪として生まれたものもいる…。

長瀬さん：そうですね、確かにそれは1つあるかなあと僕も思います。僕は、妖怪とお化けにどういう違いがあるのかってことを考えるときに、まず辞書を引いてみたんですね。辞書で調べるというのは、こういうことを考えるときに、最初の手がかりとして良い調べ方かなと思うのでお薦めです。国語辞典で「妖怪」と「お化け」を引いてみたら、いま M さんがおっしゃったような特徴や違いについて書かれていることもあれば、辞書によっては、お化けと妖怪は同じものだっていうふうに説明しているものもあったりしました。辞書でもそんな風なので、この2つの違いを説明するというのは、なかなか難しいんだなと思います。質問の時に、線引きが難しい例として「唐傘お化け」をあげてくれていましたが、それがいい例で、お化けと妖怪のどちらかに分類しきれないものもあったりするのです。

また、僕は江戸時代の文学を主に研究をしているんですけども、江戸時代の文学だと、お化けってという言葉とすごく似ている“化け物”という言葉も結構使われていたりします。この化け物って言葉は、辞書では「化けて怪しい形姿をするもの」というふうに説明がしてあって、出てくるものとしても、妖怪とすごく似ていたり、重なっていたりするものがいっぱいある。江戸時代の人たちは、化け物と妖怪っていうのはほとんど同じような意味だと捉えていたようです。そういうことを考えると、お化けとか化け物っていうのと、妖怪っていうのは、かなり重なるところがあるのかなと思います。その上で、どこに違いがあるのかなあということ考えたときに、お化けとか化け物っていうのは、名前に“化ける”ってありますよね。その化けるっていうのは、つまり、姿を変えるってことだと思うんです。姿を変えるとか、あるいは姿形が人間とは変わったものだっていうところ。そこに化け物とか、お化けの特徴っていうのがあるのかなっていうことを考えました。

ただまあやっぱりお化けと妖怪って多分、もともとは違うものだったのかもしれないんだけど、結構ぐちゃぐちゃになっているというか、実際にはどちらとも言えるようなものがたくさんあったりするのです、無理に線引きをしようとしなくて、お化けも含めた妖怪について広く調べてみるでもいいのかなと思いました。

M さん：はい、ありがとうございます。

長瀬さん：じゃあ、2つめのご質問にいきますね。妖怪と、世界で言われるモンスターの違いは何かっていうお話だったかと思います。これも、僕はどうしようかなと思ったときに、まず辞書を引いてみました。辞書でモンスターを調べると、「怪物」とか「怪獣」とかって出てきたりします。これって、妖怪と似ているような気もするけれど、なんかちょっと別のものみたいな感じもしますよね。M さんは妖怪とモンスターの違いについて、何か考えていることがあったりし

ますか？ 何でもいいんですけど。

Mさん：モンスターは外国の妖怪で、妖怪は、日本のモンスターの呼び方なのかなと。

長瀬さん：ああ、その見方はすごく大切だと思います。妖怪という言葉は日本語なので当然日本の妖怪が連想されるし、モンスターという言葉だと、ヨーロッパとか海外のモンスターが思い浮かぶっていうのは、本当にその通りじゃないかなと思います。言葉についてもう少し話すと、海外のモンスターについて調べてみると、よく似た存在で“フェアリー”って呼ばれるものがあったりするんですね。これは妖精って訳されることも多いかなと思うんですけど。このフェアリーもモンスターも、妖怪に近いものなんだけれども、でも少しずつその範囲が違いますよね。

たぶん、言葉によって指し示されている妖怪とか、モンスターとか、フェアリーとかの範囲って、少しずつずれているので、多分日本人が考えている妖怪のイメージと、海外の人が考えてきたモンスターとかフェアリーのイメージとの違いというのはあるんじゃないかなと思います。妖怪とモンスターの違いを知りたいということであれば、例えば、世界のモンスターとかフェアリーって呼ばれるようなもので、日本の妖怪とちょっと似ているようなものが、もしかしたらあるんじゃないかなと思うんですね。調べてみて、その似たような妖怪とモンスター同士を比べてみると、日本の妖怪の特徴とか、海外のモンスターの 특징っていうのが、見えてきたりするんじゃないかな。それによって、妖怪とモンスターにどういう違いがあるのかっていうことが、少し分かってくるんじゃないかなと思いました。ぜひそんな風に調べてみてくださればと思います。

Mさん：ありがとうございます。

長瀬さん：では、2つめのご質問はこのぐらいにして、3つめと4つめに行きますね。

「世界の妖怪の何%が日本の妖怪なのか」っていうことと、それから、「世界で妖怪が一番多い国を調べるにはどうしたらよいか」っていう質問をいただいていたと思います。今までの2つも難しい質問だったんですけど、この3つめと4つめの2つは特に難しい質問だなと僕は思いました。というのは、何%かという割合を調べたり、一番多い国はどこかということを考えたりするには、数を数えなきゃいけないですよね。つまりこの2つの質問に答えるためには、日本の妖怪が例えば何百いて、世界の妖怪が何千いて、それによって、何千分の何百だから、何%だというふうに、日本や世界の妖怪の数を数え上げなきゃいけない。ただ、それってすごく難しいことだと思うんですね。多分、できる人はほとんどいないんじゃないかな。それにはいろんな理由があるんですけど、1つにはまず数が非常に多いということがあると思います。ものすごく数

が多いので、その全てを数えるというのが難しいということが1つ。それから、例えば知られていない妖怪っていうのも当然ありますよね。私たちが知らない妖怪がどこかにいるかもしれないし、新しい妖怪も出てくる。Mさんが教えてくれたこれまでの探究活動の中に、新しいSDGsの妖怪を考えましたっていうのがありましたけど、そんなふうに、新しい妖怪も増えているかもしれない。そうすると、やはり全ての数を数え上げるのって、なかなか難しいのかなと思います。また、世界の妖怪について僕の方でも少し調べてみたんですが、同じ名前でも別の妖怪だったり、逆に別の名前だけどほぼ同じ妖怪ですよっていうようなものがたくさんありました。そういったものをどう数えるか、という問題もあります。

最後に、世界で妖怪が多い国はどこなのか、どうやって調べようかという質問ですが、こちらも難しく、例えば国をまたいで存在する妖怪もありますよね。日本の妖怪でも、中国とか韓国の妖怪と同じようなものがあるんじゃないかなと思いますし、ヨーロッパの妖怪だと、やっぱりヨーロッパって日本と違って陸続きになっているので、国境線で分けられない妖怪っていうのが、多分いっぱいあるんじゃないかなというふうに思います。

こんなふうに色々考えてみると、妖怪の数を数えて、世界の妖怪の数がどのくらいなのかとか、日本の妖怪はその中の何%で、一番妖怪が多い国はどこなのかといったことを考えるのは、なかなか簡単じゃないというか、難しいと思われると思います。

そこで少しうかがいたいんですけど、Mさんは、何でこの世界の妖怪の何%が日本の妖怪なのかとか、妖怪が一番多い国はどこなのかっていうようなことが気になったんでしょうか？

Mさん：なんか日本の妖怪を調べていったら、どんどんいろんな妖怪が出てきたから、世界にはどのくらいの妖怪がいて、日本にはその中のどのくらいいるのかっていうことや、日本は妖怪が多い方なのか少ない方なのかということを知りたくなったから。

長瀬さん：なるほど。そうすると、それを考えるときに、数を全部数えて何%なのかとか、一番多い国はどこなのかって調べるのはちょっと難しそうなので、何か別の方法で今Mさんが言ってくださったこと、日本は、他の国に比べて妖怪が多いのかどうかっていうことを考えてみるといいのかなと思います。

それも結構難しいんですけど、例えば、さっきもちょっと言ったんですけど、日本と世界の妖怪を比べてみることで、日本では、例えばこういった種類の妖怪がたくさんいるんだけど、世界にはそんなにいないよねというように、日本の妖怪の豊富さや、どういった妖怪が多いのかといった特徴がわかってくるんじゃないかなと思います。そういう方向で調べを進めていくと、もうちょっと

調べやすいかもしれないです。

この2つについては、私からお伝えできることはこんな感じですね。

本田先生：長瀬さん、ありがとうございます。確かに、本当に難しい質問ばかりだと思います。Mさん、今、事前にいただいたご質問に対して、長瀬さんが一通り説明や調べ方などのご提案をしてくれたんですけれども、もし重ねて、ご質問や何か今知りたいことなどあれば、お聞きいただけたらと思います。

Mさん：重ねてじゃないかもしれないけど、他に今日、考えてきた質問があるから、それでもいいですか？

本田先生：はい。もしかしたら突然聞かれて答えられない場合もあるかもしれませんが、Mさん、質問してみただけですか？

Mさん：妖怪っていうのを一番初めに考えた人は誰ですか？というか、その言葉を作ったのは誰ですか？

長瀬さん：なるほど、これも難しい質問ですね。妖怪っていう言葉はすごく昔からあるみたいで、言葉が初めて使われたということで言えば、日本で言うと、一番古くは777年のこととして妖怪という言葉が使われた例が残っていますし、それよりも昔のもので、中国の本に妖怪という言葉が使われている記録もあるので、妖怪という言葉自体は、ものすごく昔からある言葉のようです。なので、昔すぎて、誰が考えたかっていうのはなかなかわからないんです。

また、江戸時代にも妖怪という言葉は使われていたんですけど、その頃は、今お化けと似た意味で使われている妖怪という言葉よりも少し難しい言葉として使われていたみたいです。江戸時代の人たちが普段の会話で使っていた言葉としては、妖怪よりも化け物と言うことが多かったみたいで、妖怪という言葉が普通に使われるようになったのは、結構最近というか、明治時代以降のことなんじゃないかなと思います。

本田先生：今、日本では777年が最初っておっしゃいましたが、それは何に出てきたんですか？

長瀬さん：『続日本紀（しょくにほんぎ）』に出てきますね。『続日本紀』という昔の歴史書の中で、妖怪って言葉が使われていたという例があります。

本田先生：その時の言葉の意味というのは、今とは違っていたんでしょうかね？

長瀬さん：意味はどうでしょうか。それほど違わないかもしれないけれども、何か不

思議な出来事とか、そういう意味かもしれないです。「大祓す。宮中頻りに妖怪有るが為なり」とあるそうなので、妖怪というのは不思議な出来事とか現象といった意味合いで使われていた可能性があると思います。

本田先生：ありがとうございます。Mさん、「妖怪」はすごく古くからある言葉で、長い歴史の中で意味合いが少しずつ変わってきている可能性があるようです。

話は少し変わりますが、先ほど長瀬さんが、似たような妖怪を日本と海外で比べてみたら、違いがよく分かるんじゃないのかっておっしゃってくださって、すごくいいなと思ったんですけど、何を調べればいいんでしょうかね？何かいいテーマってありますか？例えば、猫に関する妖怪だと日本はこんなにたくさんあるけれど、調べてみたら海外にはあまりいない、といった感じですかね？

長瀬さん：そういうイメージで考えていましたね。

本田先生：Mさんは、何か似ているなって思った妖怪はありますか？

Mさん：海外はないけど、例えば猫で言ったら、化け猫とかと猫又とか。

本田先生：なるほど、化け猫と猫又といったように、日本には猫に関する妖怪が複数いるということですね。海外のモンスターについては、これから調べる感じですか？

Mさん：はい。

本田先生：Mさんは日本の国内の妖怪にはすごく詳しいと思うんですが、海外のことを調べるのは大変かもしれないですね。世界の妖怪大辞典みたいな分厚い辞典があったりしないんですかね？

Mさん：（部屋の中の本を探しに行って）本当には存在しない妖怪だけど、いろんな人が作ったのが載っている本があります。

本田先生：なるほど、それはそれでとても面白そうだけど、でもそうすると、もう無限に増えていきますね。無限に増えていくってこと自体が面白いのかもしれないですけど、調べ方がいろいろあって、迷ってしまいますね。

でも、今日は本当に難しい、その分深い質問をたくさんいただいて、長瀬さんにはご苦勞をおかけしたんですが、Mさん、これから先、すごく面白いいくつかの方向に探究が広がっていきそうで楽しみです。

Mさん：はい、ありがとうございます。

長瀬さん、本田先生：ぜひ、これからも頑張ってください。

■支援ミーティングを終えて

Mさんより：

私は妖怪についてよく知っている人と話す事があまり無かったので、長瀬さんと話せてとても楽しかったです。お話を聞いて、妖怪、化け物、モンスター、フェアリーという名前の意味の線引きが難しいなと思いました。妖怪の意味を取り違えないように、教えていただいた事を活かして、世界のモンスターやフェアリーについても探究してみたいと思います。ありがとうございました！

長瀬さんより：

普段小学生とお話することはないので緊張していましたが、Mさんの好奇心にあふれた興味深い質問のおかげで、たいへん充実した時間を過ごすことができました。真摯に話を聞いてくださったMさんと、貴重な機会を作っていただいた本田先生をはじめとするCASEERの皆さんに、心から感謝しています。